

人権のヨコの広がり と タテの広がり

(財)世界人権問題研究センター 所長・同志社大学教授 安藤 仁介

私たちは人権問題を考えるときに、たとえ無意識にせよ、自

分の国とか自分の世代のことを中心に置いています。たとえば、

選挙の自由とか教育を受ける権利とかについて考えるときに、わ

れわれ国民が自由に投票できるとか、教科書を無償配布せよとか、

つまり日本という国の枠内で人権問題を考えるのが普通です。

ところが、途上国は、人権を国の枠内で考えるだけでは不十分だ、

と主張します。それは、たとえば選挙の自由といっても生活に追

われて投票にいく時間を割けない、教科書の無償配布といっても

政府に財政的なゆとりがない—その原因は、国民や国家の貧し

さにある。しかし、世界経済の仕組みは先進国に有利に出来上

がっているので、途上国の努力には限度があり、途上国の人権状

況を改善するためには、先進国もまた世界経済の仕組みを変え

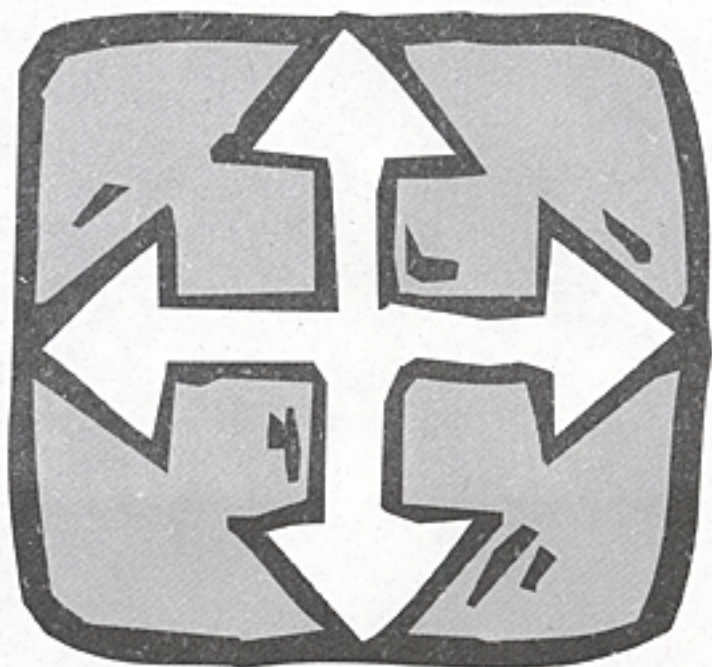
る努力をすべきである。したがって、人権問題を二国の枠内で考え

るだけでは不十分だ、というわけです。

これは、人権問題を国の枠を超えて考えるべきだ、という意味で、

人権問題のヨコの広がりを指摘するものです。ところが、人権問

vol 10



題はタテの広がりも考えなければならない、という指摘もあります。

それは、私たちが住んでいる地球の資源に限りがある以上、現在の世代が資源を浪費すると、将来の世代が地球の資源の恩恵を受ける権利を奪いかねない。だから人権問題を考える際には、現在の世代の人々と将来の世代の人々との関係、いわゆる世代間の
衡平を考慮すべきだ、という指摘です。

要するに、人権問題を考える際には、人権がタテ・ヨコの広がりを持つ、複雑でむずかしい問題を抱えていることを忘れてはなりません。